

第2学年英語科学習指導案

日 時 平成26年11月7日(金) 5校時

対 象 2年2組 男18名, 女17名 計35名

指導者 八重 檜 千晶

1 教材名 Speaking 4 道案内

2 教材の目標

英語科の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

- (1) 目的地への徒歩での行き方をたずねたり、教えたりすることができる。
- (2) 目的地までどのようにいくかの説明を理解することができる。
- (3) 道順を的確に伝えられるように工夫して説明したりする。
- (4) 道案内についての適切な表現を理解している。

3 教材の評価規準

観 点	B : おおむね満足できる
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	道順を的確に伝えられるように工夫して説明したり、相手の説明を聞いて理解しようとしたか。
外国語表現の能力	目的地への徒歩での行き方をたずねたり、教えたりすることができる。
外国語理解の能力	目的地までどのようにいくかの説明を理解できる。
言語についての知識・理解	道案内についての適切な表現を理解している。

4 教材について

(1) 生徒について

2年4月に実施のNRTでは、偏差値平均(M)が50.9である。5段階分布では、5-18%、4-29%、3-12%、2-24%、1-18%と二つの山になっており、アンバランスが見られる。また、大領別集計では、全国比で、書くことは98であり、全国比を下回っている。学級としては、聞くこと105、話すこと104と全国比を上回っている。本学級は、NRTの数値からもわかるように、学力差が大きい学級であるが、英語学習ではペア学習を基本とし、教え合いができるような雰囲気はある。これらを踏まえて、ペアワークを通して、「話すこと」「聞くこと」を中心にした活動に取り組みながら、「わかった」「できた」と実感できる授業を心がけたいと思う。

(2) 教材について

小学校学習指導要領には、「外国語でのコミュニケーションを体験させるに当たり、主として次に示すようなコミュニケーションの場面やコミュニケーションの働きを取り上げるようにすること」として『道案内』を例に挙げてある。小学校の英語学習では、方向や動きを指示する表現を使って相手に道案内をすることを主な活動として体験してきている。本教材は、尋ねる側と案内する側に情報のギャップがあり、「尋ねる」「案内する」という活動にコミュニケーションの必然性

が生まれ、生徒にとって目的意識をもって活動できる教材と考える。小学校での既習内容を踏まえながら、目的地までの所要時間や丁寧な表現を用いて相手に道順を尋ねるなど、道案内をするときに使われる英語の基本的な表現に慣れることをねらいとする。

より実践的な活動の中で繰り返し活用することで、本教材の基本表現の定着を図りたい。

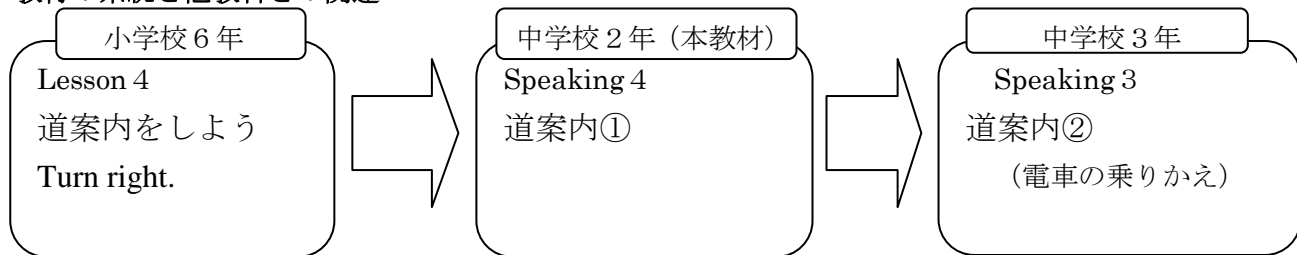
(3) 指導について

「場のつながり」としては、生徒が日本語で発表する際の文末表現（話形）に注意して話すようにさせたい。

「教材のつながり」として、本教材は、「地図を読み取り場所や建物を説明すること」として（小学校6学年 Lesson 4）の延長線上にある。道案内をする中で、方向を表す表現に加え、生徒の生活に密着した場所や建物の名前についても体験的に学習をする。

「人のつながり」として、「自分の考えをもつ」場面として具体的な場面の中で、地図を読み取り、相手にわかりやすく道順を説明する英文を作る場面を、「互いの考えを交流する」場面として、ペア・ワークや学級での発表を通して、自分以外の人の考えや表現の仕方に触れる場面を、「互いの考えのよさに気づく」場面は、聞く・話す態度についてどのような聞き方・話し方がよいか生徒に考えさせる。特に、聞き方については、うなずいたりあいづちを打ったりしながら聞く姿が話し手を受け入れることになり、相手の尊重につながることを実感させる場面を設定して行わせたい。

5 教材の系統と他教科との関連



6 教材の指導計画（2時間扱い）

- (1) 道案内の場面での尋ね方や教え方の基本的な表現を理解する。（p 70・71）・1時間
- (2) 基本的な表現を用い対話練習を行う。・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間（本時）

7 本時について

(1) 目標

- ① 声量やスピードに気を付けながら相手に尋ねたり、また教えようとしたりする。 <関心・意欲・態度>
- ② 目的地までの徒歩での行き方を尋ねたり、教えたりする。 <表現>

(2) 「自分の考えをもつ^自」「互いの考えを交流する^交」「お互いの考えのよさに気づく^気」場面
 本時の「自分の考えをもつ」場面は、地図をもとに道順を説明する英文を考える場面である。「互いの考えを交流する」場面は、ペア・ワークや学級での発表を通して、自分以外の人の考えや表現の仕方に触れる場面である。「互いの考えのよさに気づく」場面は、聞く・話す態度についてどのような聞き方・話し方がよいか生徒に考えさせる。特に、聞き方については、うなずいたりあいづ

ちを打ったりしながら聞く姿が話し手を受け入れることになる場面である。

(3) 展開

段階	学習活動	場面	○指導上の留意点●評価の観点(方法)
導入 10分	1 英語で挨拶と会話練習をする。 2 前時の学習内容の復習をする。 (1) 道順を尋ねる基本表現 (2) 道順を説明する基本表現 (3) 本文の表現を確認 3 学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 地図を使って、目的地までの行き方を尋ねたり、道のりを教えたりしよう。 </div>		○指導上の留意点●評価の観点(方法) ○ ペア・ワークで挨拶と曜日・日付・天候・昨日したこと・今晚の予定の会話練習を行わせる。 ○前時の学習内容を思い出させ、口頭練習をさせる。 ○評価のポイントについて知らせ、表現活動への動機づけとする。 ・身近な話題から導入し、より主体的に課題をとらえさせる。
展開 35分	4 道案内の活動を行う。 5 発表をし、全体で活動を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">交</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">気</div>	○インフォメーションギャップを用いたワークシートを使用させる。 ・地図を見ながら、スタート地点から目的地までの行き方を尋ねたり教えたりする。 ●地図と板書を見ながら、道案内の表現を適切に使い、進んで会話しようとしているか。(発表・観察) ・活動の様子を観察しながら、よくできている点をほめたり励ましの声をかけたりする。 ・理解が困難な場合は、聞き返したりジェスチャーを用いたりして、日本語に頼らず解決するよう伝える。 ●相手にわかりやすく伝わるように話そうとしている。(観察・発表) ○聞く・話す態度についてどのような聞き方・話し方がよいか生徒に考えさせる。
終末 5分	6 本時の活動を振り返る。 ・活動への取り組みや、目標となっている道案内に必要な基本表現の理解について自己評価する。 7 次時の学習内容を知り、挨拶する。		○本時のポイントを再確認し、本時学習のまとめとする。 ・授業の評価をし、次時の内容を知らせる。

(4) 板書計画

Friday, November 7th, Sunny

学習課題

地図を使って、目的地までの行き方を尋ねたり、道のりを教えたりしよう。

見通し

《道の尋ね方》

Could you tell me the way to ~?

How can I get to ~?

《行き方》

Go straight down this street,

Turn right at the second light.

(left)

ワークシートで使用する縮小版地図

自分の考え



交流

・相手にわかりやすく伝えるにはどんな工夫があるか?

まとめ